

令和２年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	・高校生としての身だしなみやマナーに最重点において指導した結果、一定の成果をあげた。今後も規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で統一した指導を継続する必要がある。 ・授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげた。学力の向上については一定の成果は現れたが全体の学力底上げが今後の課題である。「わかりやすい授業」とともに「力をつける授業」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。 ・京都フロンティア校として「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒の進路意識を醸成するとともに、高校卒業後の進路保障につなげることが必要である。 ・1年生の全員部活動等加入・活動を推進するとともに、部活動の一層の活性化に向けて競技力の向上のみならず、学校全体・地域との関わりを持った具体的な取組を継続する必要がある。 ・生徒の心身の状況把握に努め学校不適応に早期に対応することが必要である。	(1) 内外における学校評価に基づき、生徒や保護者のニーズを的確に把握し、教育活動の点検及び改善に努める。 (2) 自己有用感を高め、常に規範意識を持ち、人権尊重の涵養に努め、節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざす (3) 学習活動においては、日々の授業を大切にし、家庭学習の習慣を養い学習習慣の向上をめざす。 (4) 部活動においては、常にチャレンジの気持ちを忘れずに部活動に打ち込める環境づくりを行い、帰属意識や母校愛の醸成に努める。 (5) 合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な人間関係の構築に取り組み特別支援教育の指導に向けて強化を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。 ----- 学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にして改善を図る。	・部長会議をはじめ各種会議を効率的に運営し、担任、教科担当、分掌間の意思の疎通を図る。 ----- ・学校評価アンケートを全保護者対象に行い、幅広い意見を収集し課題を明確にし、改善を図る。				
教育課程の編成と実施	質の高い学力の向上をめざす。	・新学習指導要領に対応した新しい教育課程の編成に着手する。 ・一人一人の進路希望の実現に向けて、教育課程を実践する。				
教科指導	充実した授業の確立を目指す。 ----- 教科指導力を高める。	・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業や授業開始終了時のあいさつ、携帯電話に関する注意等、引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ----- ・新学習指導要領への移行を念頭に、公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器の利用を促進する。				
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的生活習慣を確立させる。 ----- いじめのない学校を目指す。	・学年・教科と連携し、全教職員で基本的生活習慣の確立に向けて指導する。 ・毎朝の校門指導、授業開始時の挨拶等、教職員からも声かけを行うなど生徒との信頼関係を構築する ・遅刻については年間10回を超える生徒が無くなることを目指す。 ----- ・職員間でいじめの定義について共有し、生徒について情報交換を行うことで早期に対応できるようにする。 ・いじめ対策委員会を機能させ、いじめ事象に対して組織的に対応できるようにする。				
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化させる。	・1年生の全員部活動加入の取り組みを推進することで部活動参加意識の向上と活動の活性化を図り、全体の入部率を男子は80%、女子は75%に向上させる。 ----- ・生徒会活動を中心として、各委員会活動や地域に根ざしたボランティア活動を活性化させる。				
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌・教科と連携し実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。 ----- ・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。				
進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、希望進路実現に向けた意欲と学力を向上させる。	・「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の進路意識を高揚させるプログラムを充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。また、高大接続改革や新入試への対応を進める。 ----- ・自ら進路を切り拓く能力や態度を養うために、進路補講、学習合宿、土曜教室、模擬試験等を積極的に実施する。				

		・「進路のしおり」の充実を図り、最新の進路情報を適切に提供すると同時に、学年部との連携の中で生徒とのカウンセリング機能を高め、個々の進路希望実現に対応する。				
保健管理	個々の生徒の理解や支援に努める。	・教育相談会議を定期考査毎に開催し、生徒の状況を把握・共有して、支援につなげる。 ・hyppr－QU、特別支援（合理的配慮）をテーマとした校内研修会を実施することにより、生徒理解における教職員の指導力向上を目指す。 ・個別の支援等が必要な生徒に対する校内委員会を定期的に開催し、適切な支援ができるようにする。				
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	・美化・安全点検を定期的に行い、環境美化活動を活性化させる。また感染症拡大防止のための環境整備に努める。 ・保健委員会の活動を活性化し、委員会ニュース等を活用して、健康・安全や校内美化の啓発に努める。				
就学支援	生徒の経済的不安に対する制度的な支援を行う。	・就学支援事業や奨学金制度の周知とていねいな事務処理により、不安のない高校生活や希望進路の実現につなげられるよう援助する。				
財 務	生徒が安全・安心して学校生活を送れるよう、教育環境を確保する。	・効率的な予算執行に努めるとともに、施設設備のメンテナンスを向上させ、より良い教育環境を確保する。				
広報活動	地域からの信頼や期待に応え、本校の良さがよりよく伝わるよう広報活動を行う。	・校内で開催する学校説明会や部活動体験の開催時期、開催内容等について、より効果的かつ効率的な設定を工夫する。 ・ホームページ及びメールサービス等、インターネットを介した情報発信について、校内的な連携を密にするとともに即時的な発信を心がける。				
学 校 関 係 者 評 価 に よ る 評 価						
次 年 度 に 向 け た 改 善 方 向 性						